



# 第125回 日本医史学会総会 学術大会

医史学研究と関連諸科学

会期：令和6年（2024年）9月14日（土）・15日（日）

会場：水戸市民会館

会長：瀧澤 利行

後援：国立大学法人茨城大学

一般社団法人茨城県医師会

茨城県小児保健協会

放送大学茨城学習センター

水戸コンベンション観光協会

資料協力：弘道館事務所

## ご挨拶

### 第 125 回日本医史学会総会・学術大会の開催にあたって

会長 瀧澤 利行（茨城大学教育学部）



2024 年（令和 6 年）9 月 14 日（土）・15 日（日）の両日、茨城県水戸市にて第 125 回日本医史学会総会・学術大会のお世話をさせていただくことになりました瀧澤利行と申します。このたびは栄誉ある第 125 回の本学会総会・学術大会の会長にご推挙いただき、身に余る光栄と存じますとともに、その責任の重さを感じているところでございます。会員、役員、実行委員の先生方からの多大なご支援をいただきまして、恙なく大役を務められることを願う日々です。

本学会総会・学術大会を茨城県水戸市で開催するのは、真柳誠茨城大学名誉教授（現・本学会監事）を会長として 2010 年 6 月に開催された第 111 回総会以来 2 回目となります。実行委員長を務めさせていただいた私も、非常に印象深くその際のこと記憶に刻まれております。真柳先生のエネルギーに圧倒される思いとともにお仕えしたことは、私にとって何よりの学習となりました。それは、「会長陣頭」という会のすすめ方としてわが身に刻まれました。

さて、第 125 回総会・学術大会は、会員の先生方による一般講演がもとより主軸ではありますが、テーマを「医史学研究と関連諸科学」とし、社会学、哲学・倫理学、統計学、文学などとの越境的な研究が盛んに行われてきた西欧の医史学研究を念頭におきながら、日本の医史学研究においても、そうした領域越境的な研究アプローチがなされることを一つの想定として、本学術大会では領域越境的な研究の現在地を明確にすることを企図して種々の企画を試みました。

第 1 日には本学の伊藤孝先生と水戸弘道館の小坪のり子先生による市民公開講座 2 題、特別講演として当地水戸が近代日本の幕開けにおいて多大な影響をあたえた「水戸学」について、片山杜秀慶應義塾大学教授に「水戸学の四百年」をお願いいたしました。そして教育講演では当地茨城に関わる趣の異なる演題として、小野寺淳放送大学茨城学習センター所長（茨城大学名誉教授）、本学会理事の佐藤裕先生に同じく青木歳幸先生をお願いしております。さらに、新たな試みとして、会員に比較的自由な形式で話題提供をしていただき、そのテーマについて自由に懇談する「コロキウム」を企画し、台湾医史学会との学術交流、医史学研究とゲノム解析、医学部における医学史教育に関する 3 セッションが開設されます。

第 2 日午後には本総会の標榜テーマである「医史学研究と関連諸科学」と題したシンポジウムを関連諸学の第一人者に会していただき、活発な議論を展開していただきたいと考えております。それとともに、学術大会における最も肝要な内容は会員の先生方による最新成果のご講演です。これには十分な会場を用意しておりますので、一人でも多くの先生にお聴きいただけるよう願っております。

本総会・学術大会の会場は、2023 年 7 月に落成した新生の水戸市民会館です。学会の翌日には教育講演をいただく小野寺所長の嚮導による水戸の史跡をご案内する企画も用意しております。

第 1 日の夕刻よりは水戸駅直結のホテルにて会員懇親会もご準備して、充実した大会になるよう務めてまいります。先生方挙ってご来水いただけますことを実行委員会一同お待ち申し上げます。

## 日程表

9月13日

18:30~21:00 役員懇親会兼日本医史学会百年史懇談会

9月14日 受付開始 8:30

9:00~9:10 会長挨拶  
9:30~12:10 一般演題A・B・C  
10:00~11:00 市民公開講座Ⅰ「日本列島はすごい」伊藤孝（茨城大学教授・中公新書  
「日本列島はすごい 水・森林・黄金を生んだ大地」著者）  
11:00~12:00 市民公開講座Ⅱ「水戸藩の医学と弘道館医学館」小坏のり子（弘道館事務所主任研究員）  
12:00~13:30 昼食・休憩  
13:30~14:30 開会行事・総会・表彰・写真撮影  
14:30~15:30 特別講演：「水戸学の400年」片山杜秀（慶應義塾大学教授）  
15:40~16:40 教育講演Ⅰ「地図製作者を輩出した19世紀の茨城」小野寺淳（茨城大学名誉教授・放送大学茨城学習センター所長）  
教育講演Ⅱ「佐藤進(1845-1921):日本外科学の近代化に貢献したビルロート外科学の継承者」佐藤裕（本学会理事）  
教育講演Ⅲ「水戸藩の種痘と近代医学」青木歳幸（本学会理事）  
16:45~17:45  
コロキウムⅠ「瘴癘の島から現在台湾へ」  
コーディネーター：福永肇（埼玉学園大学）  
コロキウムⅡ「最新のゲノム解析技術がもたらす医史学研究への期待」  
コーディネーター：加藤茂孝（東京慈恵会医科大学）  
コロキウムⅢ「医学部における医学史教育について」医学史教育委員会  
コーディネーター：松田隆秀（聖マリアンナ医科大学）  
18:30~20:30 情報交換会（会員懇親会）（ホテル・テラス・ザ・ガーデン水戸）

9月15日 受付開始 8:30

9:00~12:10 一般演題D・E・F  
12:10~13:30 昼食・休憩  
13:30~15:50 シンポジウム「医史学研究と関連諸科学」（座長：坂井建雄・松田隆秀）  
・文学と医史学（加藤茂孝・東京慈恵会医科大学）  
・疫学・公衆衛生学と医史学（逢見憲一・国立保健医療科学院）  
・社会科学と医史学（宝月理恵・お茶の水女子大学）  
15:50~16:00 閉会行事・次期会長挨拶（鈴木則子・奈良女子大学教授）

9月16日 エクスカーション「小野寺淳と巡る水戸街あるき」

9:30~15:30 NHK番組「プラタモリ」にも出演した水戸の街を知り尽くした小野寺淳茨城大学名誉教授がご案内する水戸の街と歴史を楽しむ催し：弘道館医学館史料拝見・水戸借楽園「萩まつり」巡覧・借楽園をみながらの昼食・その他の内容

## 第1日 2024年9月14日(土)

### 【メイン会場】 水戸市民会館中ホール（ユードムホール）

- 8:30～ 受付（メイン会場前ホワイエ）
- 9:00～9:10 第125回日本医史学会総会・学術大会長挨拶（瀧澤 利行）
- 10:00～11:00 市民公開講座Ⅰ  
「じつは、相当に『日本列島はすごい』」 演者：伊藤 孝（茨城大学教授）  
座長：上地 勝（茨城大学教授）
- 11:00～12:00 市民公開講座Ⅱ  
「水戸藩の医学と弘道館医学館」 演者：小坏 のり子（弘道館事務所主任  
研究員）  
座長：千葉 真由美（茨城大学教授）
- 12:00～13:30 昼食・休憩
- 13:30～14:30 開会行事・総会・表彰・写真撮影（進行：第125回大会長 瀧澤利行）  
・ 一般社団法人日本医史学会理事長挨拶 町 泉寿郎  
・ 大会名誉会長挨拶 国立大学法人茨城大学学長 太田 寛行  
・ 来賓代表挨拶 一般社団法人茨城県医師会長 松崎 信夫  
・ 一般社団法人日本医史学会総会  
・ 矢数医史学賞・富士川游学術奨励賞授賞式  
・ 写真撮影
- 14:30～15:30 特別講演  
「水戸学の四百年」 演者：片山 杜秀（慶應義塾大学教授）  
座長：瀧澤 利行（茨城大学教授）
- 15:40～16:40 教育講演Ⅰ  
「地図製作者を輩出した19世紀の茨城」  
演者：小野寺 淳（放送大学茨城学習センター所長・放送大学特任教授茨  
城大学名誉教授）  
座長：小曾戸 洋（日本医史学会副理事長・武田科学振興財団杏雨書屋）

## 【A会場】水戸市民会館 大会議室 I

### 一般講演 A

	座長	演者	演題
9:30～ 9:45	福島 正幸	根木 翼	血液学はいかに生まれて、進化してきたか —検査技術の発展からの影響—
9:45～ 10:00		服部 伸	帝政期からヴァイマル期ドイツにおけるホメオパシー健康協会での「学び」
10:00～ 10:15		柳澤 波香	ジェイムズ・マッケンジー：一般診療から臨床研究へ
10:15～ 10:30		伊藤 泰広	エコノモと現代脳科学研究に繋がる業績
10:30～ 10:45	志村 俊郎	今井 秀	白砂糖製造の功労者・飛鳥子静の生涯
10:45～ 11:00		川島 真人	神谷弘孝と奥平昌高
11:00～ 11:15		佐藤 裕	アインシュタインと三宅速の交流
11:15～ 11:30	川島 真人	西嶋 佑太郎	野呂天然の解剖図譜について
11:30～ 11:45		海原 亮	山崎文庫「御検使掛要書」について
11:45～ 12:00		向 静静	喜多村直寛における医学思想の変容：ホブソン漢文西洋医書からの影響

### 16:45～17:45 コロキウム I

「瘴癘の島から現在台湾へ」

コーディネーター：福永肇（埼玉学園大学）

座長：劉 景寛（台湾醫學史學會理事長）

演者：陳 順勝 劉 清泉 劉 景寛

**【B会場】 水戸市民会館 大会議室Ⅱ**

**一般講演B**

	座長	演者	演題
9:30～ 9:45	真柳 誠	矢口 直英	イスラーム世界における解剖学と用途論：骨の記述を例に
9:45～ 10:00		関屋 成彰	『黄帝甲乙経』と御菌常斌について
10:00～ 10:15		姜 姍	比喩の修辞から隠喩の認識へー中日の文学と芸術における鍼灸ー
10:15～ 10:30		Shun-Sheng Chen	台湾南島民族早期傳統醫學史
10:30～ 10:45	橋本 明	對馬 秀子	伊豆七島における種痘および医師—幕末から明治中期の島々—
10:45～ 11:00		小島 光洋	或る「精神分裂病」患者の診療記録の保管と利用に関する考察
11:00～ 11:15		ハーディング 優子	東濃で明治～昭和期にパンデミックに挑んだ東京診療所熊谷医院の地域医療 ～土岐熊谷医院の直系親族からのオーラル・ヒストリー～
11:15～ 11:30	永島 剛	逢見 憲一	わが国の明治以降第二次世界大戦前後を含む期間の死亡率低下と医療・公衆衛生の役割
11:30～ 11:45		藤本 篤二郎	高根達の経歴からみる明治期衛生行政への貢献
11:45～ 12:00		加藤 茂孝	日本における古人骨からの病原体ゲノム DNA 検出の可能性

**15:40～16:40 教育講演Ⅱ**

「佐藤 進(1845-1921)：日本外科学の近代化に貢献したビルロート外科の継承者」

演者：佐藤 裕（九州大学医学部医学歴史館・本学会理事）

座長：澤井 直（順天堂大学医学部）

**16:45～17:45 コロキウムⅡ**

「文献的医史学研究への最新科学研究技術の導入」

コーディネーター：加藤茂孝（東京慈恵会医科大学客員教授）

## 【C会場】 水戸市民会館 大会議室Ⅲ

### 一般講演C

	座長	演者	演題
9:30～ 9:45	中村 安秀	平崎 真右	戦前戦後における「拓殖大学漢方医学講座」の運営と展開
9:45～ 10:00		橋本 明	第二次世界大戦後のアメリカの薬物政策と沖縄
10:00～ 10:15		永藤 欣久	歯科教育改革に影響を及ぼした女子歯科医学生とその出自
10:15～ 10:30		福永 肇	日本の台湾統治時代（日治時代）の病院整備と展開
10:30～ 10:45	渡部 幹夫	土手 健太郎	華岡流門人 高階枳園（たかしな きえん）について
10:45～ 11:00		平井 雄一郎	水戸天狗党とハンセン病——いくつかの〈可能性としての歴史〉
11:00～ 11:15		上園 慶子	日本四大眼科、筑前国田原家の診療状況 —「文政2年（1819）眼目療治帳」より—
11:15～ 11:30	松村 紀明	竹内 薫	土肥慶蔵著『世界黴毒史』の書誌学的検討
11:30～ 11:45		平尾 真智子	澤山保羅によるナイチンゲール『看護覚え書き』翻訳（1877年）の試み
11:45～ 12:00		松崎 範子	地方におけるドイツ医学の受容 - 北里柴三郎設立の熊本「輔元会」をもとに

### 15:40～16:40 教育講演Ⅲ

「水戸藩の種痘と近代医学」

演者：青木 歳幸（佐賀大学特命教授・本学会理事）

座長：西巻 明彦（日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館・本会監事）

### 16:45～17:45 コロキウムⅢ

「医学部における医学史教育について」

コーディネーター：松田 隆秀（聖マリアンナ医科大学特任教授）

医学史教育委員会：松田 隆秀 坂井 建雄 樋田 一徳 長谷川 仁志

稲森 正彦 桐生 迪介 勝井 恵子 富田 泰彦

藤倉 輝道 望月 篤 森下 真理子 山崎 由花

志村 俊郎 北村 聖

**第2日 2024年9月15日（日）**

**【メイン会場】水戸市民会館中ホール（ユードムホール）**

8:30～ 受付（メイン会場前ホワイエ）

**13:30～15:50 シンポジウム「医史学研究と関連諸科学」**

座長：坂井 建雄（順天堂大学保健医療学部特任教授・本学会副理事長）

松田 隆秀（聖マリアンナ医科大学特任教授・本学会常任理事）

シンポジスト：加藤 茂孝（東京慈恵会医科大学客員教授）

「文学と医史学」

逢見 憲一（国立保健医療科学院主任研究員）

「疫学・公衆衛生学と医史学—マキューン・テーゼと

3つのアプローチ—」

宝月 理恵（お茶の水女子大学准教授）

「社会学と医史学」

**15:50～16:00 閉会行事・次期会長挨拶**

・次期会長挨拶：鈴木則子（奈良女子大学教授）

・謝辞：瀧澤 利行

【A会場】 水戸市民会館 大会議室 I

一般講演D

	座長	演者	演題
9:00～ 9:15	柳澤 波香	土屋 江里子	1832 年解剖法成立の経緯
9:15～ 9:30		武田 克彦	20 世紀初めに脳の全体論の復興に影響を与えた思想について
9:30～ 9:45		月澤 美代子	『血清病』再考－フォン・ピルケの研究・プロジェクトー
9:45～ 10:00		遠藤 花子	『タイタス・アンドロニカス』にみる狂気
10:00～ 10:15	海原 亮	坂井 建雄	緒方洪庵訳『人身窮理学小解』と 19 世紀までの東西の解剖学・生理学
10:15～ 10:30		町 泉寿郎	堺・半井家の歴代とその肖像
10:30～ 10:45		吉川 澄美	『九九選方』における味岡三伯の基本 81 薬方と分類法
10:45～ 11:00		西巻 明彦	医術と兵学思想
11:00～ 11:15	今井 秀	佐藤 弘一郎	松葉杖はいつからあるのか
11:15～ 11:30		志村 俊郎	済生学舎と野口英世 —野口博士 15 年ぶりの一時帰国を中心に—
11:30～ 11:45		渡部 幹夫	塩田廣重の第一次世界大戦下日本赤十字社フランス派遣救護班記録と島崎藤村の記述
11:45～ 12:00		竹原 万雄	『明治二十八年福島県虎列刺病流行紀事』の研究

【B会場】 水戸市民会館 大会議室Ⅱ

一般講演E

	座長	演者	演題
9:00～ 9:15	長野 仁	三鬼 丈知	『医学啓源』所引「主治秘要」考
9:15～ 9:30		加畑 聡子	『天聖銅人腧穴鍼灸図経彙攷』に見える欄外注について
9:30～ 9:45		王 天恵	丁福保訳『病理学材料実地練習法』の底本に関する考察
9:45～ 10:00		中川 俊之	初期経絡治療における脈状診の研究
10:00～ 10:15	百瀬 祐	永塚 憲治	新出の房中書『玉華真経』について
10:15～ 10:30		黒野 伸子	濃尾地震における吉益雄太郎の救護活動と地域医療への貢献 -小寺家文書と周辺資料の統合から-
10:30～ 10:45		島山 奈緒子	京都北部の医家である太田家（太田典禮生家）史料の全容
10:45～ 11:00		星野 卓之	愛洲薬に関する江戸時代の古医書記載
11:00～ 11:15	鈴木 則子	杉田 克生	ブルッセル医学博物館訪問記
11:15～ 11:30		木下 浩	現存する旧佐伯独立隔離病舎～地域における隔離の実態 解明に向けて～
11:30～ 11:45		相川 忠臣	「結核」の始まりと復活について
11:45～ 12:00		廣川 和花	戦前期日本のハンセン病療養所における入退所の構造： 九州療養所「患者身分帳」の分析

【C会場】 水戸市民会館 大会議室Ⅲ

一般講演F

	座長	演者	演題
9:00～ 9:15	平尾 真智子	山口 静子	貝原益軒『養生訓』と養生思想
9:15～ 9:30		趙 菁	『日本衛生文庫』の歴史的価値の再認識・再創出
9:30～ 9:45		鈴木 紀子	日清戦争における衛生隊編制と看護
9:45～ 10:00		中村 安秀	海外と日本の母子健康手帳の歴史的発展に関する比較研究
10:00～ 10:15	澤井 直	長田 直子	幕末期の笠間藩医赤松桐蔭『詩稿』について
10:15～ 10:30		本村 育恵	琉球の牛痘法導入と医療宣教師ベッテルハイム
10:30～ 10:45		松木 宣嘉	内藤記念くすり博物館所蔵の服部甫庵旧蔵書について
10:45～ 11:00		長野 仁	《百腹図説》継承者の前田春策を酷評する18世紀の患者学
11:00～ 11:15	福島 正幸	大道 近也	相馬事件—江口襄の相馬誠胤剖検所見を現代循環器学から考察した死因の探求
11:15～ 11:30		柳川 錬平	スペイン風邪と新型コロナウイルス感染症とで含嗽の扱いはどう変わったか？
11:30～ 11:45		山形 悠	近代本草学の保存と変遷 —漢方への視点 清水藤太郎の動向を中心に—
11:45～ 12:00		澤井 直	順天堂第3代堂主 佐藤進の水戸光圀評伝について

**【誌上发表】**

吉村 美香	2023年NHK朝ドラ『らんまん』の牧野富太郎と本草学
秋田 博孝	清国兵俘虜の体格検査に関する一考察(2)
松木 明知	本間玄調による華岡青洲の「遺教本」の撰定
岡田 靖雄	羽仁五郎さんは歴史探究者だったか
山内 一信	名古屋時代における後藤新平の貢献
安部 郁子	研医会図書館所蔵『馬島流眼療秘方書』瑠璃子之書にある二味方剤
須長 泰一	横浜一般病院のミシヨー医師について—日本文化研究の観点から—
小曾戸 洋	北里文太郎と藤浪剛一・富士川游・大鳥蘭三郎
木場 由衣登	中医学の臓腑病証と日本の影響

**エクスカーション 2024年9月16日(月・祝)****9:30~15:30**

水戸駅南口→弘道館(医学館史料拝見・館内巡覧)→偕楽園(園内及び「水戸萩まつり」)

巡覧→偕楽園を臨み昼食・休憩→笠原水源→明利酒造「別春館」→水戸駅南口解散

※参加者には、別途連絡いたします。

## 参加者へのご案内（第125回日本医史学会総会・学術大会用「水戸学」）

### 1. 参加にあたって

#### (1) 参加費など

- ①学会参加費：一般参加費（会員・非会員とも）8,000円　　学生参加費　4,000円
- ②情報交換会（会員懇親会）：8,000円
- ③記念写真代：1,000円

#### (2) 受付について

- ①受付は9月14日（土）、9月15日（日）とも8:30～　水戸市民会館南側4F　メイン会場（中ホール「ユードムホール」前ホワイエにて行います。
- ②事前登録システム（Payvent）にて登録された方は、システムから参加証・名票・領収書を発行することができますので、印刷して会場までお持ちください。
- ③事前登録がお済みでない方は、当日に「参加者受付」にて上記参加費等をお納めください。当日は現金のみでの対応となります。

#### (3) 昼食について

9月14日、15日とも150食をご用意いたします。参加者はお一人一個宛ご自由にお召し上がりください（無料）。開会行事、総会、表彰に登壇される方、特別講演、教育講演の演者、座長は打ち合わせを兼ねて別途昼食をご用意いたしますのでそちらをご利用願います。なお、参加者用昼食が個数完了の際はご容赦願います。休憩室に軽食をご用意いたしますので、そちらをご利用願います。お飲み物は休憩室にご用意した飲み物をご利用ください。

#### (4) 昼食・休憩場所について

メイン会場（中ホール）は飲食禁止です。昼食は14日についてはA会場（大会議室A）、中会議室301、小会議室305にてお取り下さい。会議進行中の休憩は、中会議室301または小会議室305をご利用願います。15日の昼食については中会議室302または小会議室305をご利用下さい。なお、会場は公共施設のため、他の一般利用者の方々が利用されるスペースが大会会場内にございますので、円滑にご対応をお願いいたします。万が一、大会運営にあたって支障がある場合でも、大会事務局を通じて市民会館運営者に対応を依頼いたしますので、何卒ご理解願います。

### 2. 情報交換会（会員懇親会）

日時：9月14日（土）　18:30～20:30

会場：ホテルテラスザガーデン水戸（〒310-0015　茨城県水戸市宮町1-7-20：水戸駅南口直結）

TEL：029-300-2500（代表）

参加費：8,000円　（参加登録システムによる事前受付、当日受付とも同額です）

※情報交換会（会員懇親会）の当日受付は、会場定員100名程度まで受け付けますが、参加可能人数上限に達した場合には、恐縮ですが以降の参加申し込みを終了させていただきますので、ご了承願います。

### 3. 役員懇親会兼日本医史学会百年史懇談会

日時：9月13日（金） 18:30～21:00

場所：水戸市民会館小ホール（南側4F）または京成百貨店8Fバンケットホール（会場直結）

参加費：5,000円

※標記懇親会は日本医史学会百年史懇談会を兼ねて開催されます。名誉会員、功労会員、理事、監事、代議員には別途ご案内を差し上げております。

### 4. 第125回日本医史学会記念茶会

日時：9月14日（土） 10:00～15:30

場所：水戸市民会館和室（南側4F）

参加費：無料（学会受付時に呈茶券を配付いたします。数量限定）

- ①茨城大学茶道部による立礼式（椅子席）での茶会が開催されます。椅子に腰掛けていただいて薄茶を一服召し上がっていただけます。
- ②一席の人数に限りがございますので、ご希望の時間帯に召し上がっていただけない場合には、次の席にお移りいただくことがございます。
- ③翌日の借楽園での茶会の準備のため、15時30分には仕舞い支度に入りますので、ご了承ください。

### 5. 会場までの交通

#### (1) 飛行機利用の場合

羽田空港よりリムジンバスで羽田空港→水戸駅 約2時間10分 第1ターミナル3番乗場・第2ターミナル4番乗場・第3ターミナル1番乗場（第3 T13:15・第2 T13:25・第1 T13:30 第3 T16:35・第2 T16:45・第1 T16:50）

茨城空港からのバスはこちらをご参照下さい (<https://www.ibaraki-airport.net/access/bus/mito/>)

#### (2) 電車利用の場合

- ①JR東京駅より上野東京ライン経由のJR常磐線にて特急で約1時間10分、普通電車で約2時間、JR水戸駅下車（1時間に2本）
- ②仙台駅より常磐線特急ひたちで約3時間10分（仙台発 8:48、14:16、18:02）

#### (3) 自家用車の場合

外環道三郷インターチェンジから常磐高速道水戸インターチェンジを降りて国道50号を水戸駅方向に約30分～50分、泉町1丁目交差点角が会場です。水戸市民会館の駐車場は来場者には開放されていません。近隣の市営駐車場（有料）：五軒町立体駐車場（水戸芸術館東側）283台：五軒町地下駐車場（水戸芸術館地下）217台：周辺の有料駐車場（500m圏内に約4,600台）等があります。

#### (4) JR水戸駅から

路線バス：水戸駅北口（4～7番のりば）から約5分「泉町一丁目」下車すぐ、徒歩：約20分

## 第 125 回日本医史学会総会・学術大会 講演等 運営要領

本運営要領は、第 125 回日本医史学会総会・学術大会における各プログラム運営の一般要領を演者・座長の各先生においてご配慮願いたいことを記載しております。円滑な学会進行に何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。ご不明な点は、大会事務局までお問い合わせ願います。

### 0. すべての方へ

- (1) ご来場になりましたら、講演者、座長の先生ともそれぞれの受付（特別講演・教育講演・市民公開講座演者受付、一般講演演者受付、座長受付）をお願いいたします。なお、原則として大会参加受付は、事前に下記オンラインシステムより登録願います。

[https://app.payvent.net/embedded\\_forms/show/65e3c74f240b243dd3e471be](https://app.payvent.net/embedded_forms/show/65e3c74f240b243dd3e471be)

万が一、ご登録を逸された場合は当日の受付も可能ですが、お時間を頂戴することになることをご了承願います。ネームカード等も登録システムからダウンロードできますが、お忘れになった場合は当日受付にお申し出願います。

- (2) 特別講演・教育講演、市民公開講座、一般講演の演者の先生方でご発表にパワーポイントをご用になる場合には、8月20日から8月31日までの間に下記の google ドライブにアクセスしてパワーポイントファイル（Macintosh において作成された場合には Microsoft office にて convert 済みのもの）をアップロード願います。

<https://drive.google.com/drive/folders/10ymMI4pxbt73EzsaebPMfAUPYSqt-iQH?usp=sharing>

「第 125 回日本医史学会総会・学術大会パワーポイント」内に「特別講演」「教育講演」「市民公開講座」「シンポジウム」「コロキウム」「一般講演 A～F」のサブフォルダが作成されていますので、サブフォルダ内に各先生ご作成のパワーポイントデータファイルをアップロード願います。ファイル名は例「一般講演 A・徳川光圀」「教育講演・藤田東湖」のように「講演区分・氏名」で登録願います。なお、ご都合で期日までにご登録ができなかった場合には、お手数ですがご講演当日の朝にパワーポイントデータを USB フラッシュメモリに格納してご持参下さい。ウイルスチェック後に会場の PC に移行願います。

### 1. 特別講演・教育講演演者・市民公開講座

- (1) 講師の先生方へ
  - 1) 当日は、ご講演開始時間の 30 分前に「特別講演・教育講演演者受付」にお越し下さい。大会実行委員が控室までご案内いたします。
  - 2) 控室にて事務手続きをさせていただきつつ、座長の先生と適宜、打ち合わせをお願いいたします。開始時刻が近づきましたら、実行委員が会場までご案内申し上げます。貴重品以外は控室にて預かりも可能です。
  - 3) 講演会場に着かれましたら、演者席に着き、進行係の合図をお待ち下さい。
  - 4) 座長の先生が、最初にご挨拶と簡単な演者のご紹介をした後、お声がけしますので、ご講演を開始願います。

- 5) ご講演の進行については、演者・座長の先生方にお任せしておりますが、時間内の終了につきましてご協力をお願い申し上げます。
  - 6) 特別講演・教育講演・市民公開講座は、慣例として聴衆からの質疑を頂戴しません。座長の先生から演者へのお礼のご挨拶でご講演終了となります。
  - 7) ご降壇後は控室にお戻り下さい。適宜、御休憩の後、会場内でご随意にお過ごし下さい。
- (2) 座長の先生方へ
- 1) ご担当の特別講演・教育講演・市民公開講座開始の30分前までに、「座長受付」にお越し下さい。大会実行委員が控室までご案内いたします。
  - 2) 控室にて事務手続きをさせていただきつつ、演者の先生と適宜、打ち合わせをお願い申し上げます。開始時刻が近づきましたら、係員が会場までご案内申し上げます。貴重品以外は控室にて預かりも可能です。
  - 3) 講演会場に着かれたら、演者席に着き、進行係の合図をお待ち下さい。
  - 4) 開始時刻になりましたら、進行係より「ただいまより特別講演（教育講演〇、市民公開講座〇）を開始いたします。座長の〇〇先生、よろしく願いいたします」とアナウンスしますので、最初に、講演のご挨拶と演者の紹介をしてから、講師に講演開始の合図をお願いいたします。その後は適宜、進行をお願いいたします。
  - 5) 講演の進行方法については、演者・座長の先生方にお任せしておりますが、時間内での円滑な進行にご協力をお願い申し上げます。
  - 6) 特別講演・教育講演・市民公開講座は、慣例として、聴衆からの質疑を頂戴しませんが、事前の打ち合わせで演者の先生が聴衆との質疑応答を希望された場合には、余裕に応じて、お一人乃至お二人程度の時間を設けていただいても構いません。ただし、講演の趣旨から論争的な内容と判断された場合には、「時間の関係もございまして演者の先生ご降壇後に個別にお願いいたします」など、円満な進行にご協力をお願い申し上げます。質疑がない場合は、座長の先生の演者へのお礼のご挨拶と拍手のご先導をお願いいたします。
  - 7) 演者の先生と一緒に控室にお戻り下さい。適宜、御休憩の後、その後は会場内でご随意にお過ごし下さい。

## 2. コロキウム

### (1) コーディネーターの先生方へ

- 1) コロキウム3題のうち、コロキウムⅠ「台湾医史学会との交流」は、A会場（大会議室Ⅰ）で行われますので、事前準備が可能です。ただし、14:30までは昼食会場にもなっていますのでご留意願います。コロキウムⅡ「最新のゲノム解析技術がもたらす医史学研究への期待」、コロキウムⅢ「医学部における医学史教育」については、直前まで教育講演の会場となっておりますので、教育講演終了後、直ちにご準備をお願いいたします。Ⅱ、Ⅲご担当のコーディネーターの先生方は、各会場（大会議室Ⅱ、Ⅲ）に10分前（教育講演進行中ですが）にお入り下さい。
- 2) コロキウムの開始時間になりましたら、進行はコーディネーターの先生にお任せいたします。係員が1名待機しておりますので、質疑応答などがある場合には、マイク回しなどをご指示下さい。
- 3) 配付資料などがある場合には、会場入口に置き付けで配付願います。
- 4) コロキウム終了後は、（同日中の）それ以後のセッションはございませんので、そのままご散会下さい。

### 3. シンポジウム

#### (1) 登壇者の先生方へ

- 1) シンポジウムの登壇者の先生方は、9月15日(日)12:20に水戸市民会館特別会議室にご参集下さいようお願いいたします。座長の先生とご昼食をお取りいただきながら、打ち合わせをお願いいたします。シンポジウム各発題の順序や質問の取り方などについて、お図り下さい。
- 2) シンポジウムの開始時刻13:30の10分前(13:20)に、メイン会場(水戸市民会館中ホール:ユードムホール)へ係員がご案内いたします。貴重品以外は控室にてお預かりも可能です。
- 3) シンポジウム会場に着かれましたら、演者席に着き、進行係の合図をお待ち下さい。
- 4) 座長の先生がシンポジウム開始のご挨拶と簡単な演者ご紹介を申し上げます。その後、座長の先生のお声がけでご発題を開始願います。
- 5) シンポジウムは140分(2時間20分)の予定です。概ねの配分として、座長からのシンポジウムの趣旨紹介とシンポジストの紹介で10分、各シンポジストの発題が概ね20分~25分、休憩15分、各シンポジスト同士の意見交換と聴衆との質疑応答、意見交換30分、まとめ(各シンポジストの一言と座長総括)10分、とお考え下さい。シンポジストの発言時には、他のシンポジストのための席を最前列に設けますので、ご降壇いただきご利用下さい。
- 6) シンポジウム終了後すぐ、閉会行事に移行いたしますので、ご降壇後はそのまま最前列の席にて閉会行事にご参加下さい。

#### (2) 座長の先生方へ

- 1) シンポジウムの座長の先生方は、9月15日(日)12:20に、水戸市民会館特別会議室にご参集下さいようお願いいたします。座長の先生とご昼食をお取りいただきながら、打ち合わせをお願いいたします。シンポジウム各発題の順序や質問の取り方や、お二人の座長の先生の役割分担などについて、お図り下さい。
- 2) シンポジウムの開始時刻13:30の10分前(13:20)に、メイン会場(水戸市民会館中ホール:ユードムホール)へ係員がご案内いたします。貴重品以外は控室にてお預かりも可能です。
- 3) シンポジウム会場に着かれましたら、座長席に着き、進行係の合図をお待ち下さい。
- 4) 開始時刻になりましたら、進行係より「ただいまよりシンポジウム「医史学研究と関連諸科学」を開始いたします。座長の坂井先生、松田先生よろしくをお願いいたします」とアナウンスしますので、シンポジウム開始のご挨拶と演者のご紹介をいただき、以後の進行をお願い申し上げます。
- 5) シンポジウムは140分(2時間20分)の予定です。概ねの配分として、座長からのシンポジウムの趣旨紹介とシンポジストの紹介で10分、各シンポジストの発題が概ね20分~25分、休憩15分、各シンポジスト同士の意見交換と聴衆との質疑応答、意見交換30分、まとめ(各シンポジストの一言と座長総括)10分、とお考え下さい。シンポジストの発題時には座長の先生は壇上でもかまいませんが、最前列に席を設けますので、ご利用下さい。
- 6) 休憩後の各シンポジスト同士の意見交換と聴衆との質疑応答においては、会場にマイク回しの係員を2人配置しますので、発言者にマイクが渡るよう、ご指示願います。
- 7) 15:40を目途に聴衆との意見交換を収束させ、10分程度で、議論内容のまとめや、今後の学会に反映すべき検討事項のまとめをお願い申し上げます。
- 8) シンポジウム終了後すぐ、閉会行事に移行いたしますので、ご降壇後はそのまま最前列の席にて閉会行事にご参加下さい。

#### 4. 一般講演

##### (1) 演者の先生方へ

- 1) 一般演題による一般講演は、14日(土)9:30~12:10(一般講演A・B・C)と、15日(日)9:00~12:00(一般講演D・E・F)の2区分に分かれております。学会ホームページに掲載されている各先生の演題日時をご確認願います。
- 2) ご自身のご発表の1演題前までに、発表会場の「次演者席」にご着席下さい。
- 3) 前演者のご講演が終了しましたら、すみやかにご登壇願います。
- 4) 1演題の時間は、口頭発表11分・質疑討論3分です。発表開始後10分(残り1分)で1度目の振鈴がなりますので、残りの1分間で終了されるようお願いいたします(発表内容をおまとめ下さい)。ご講演に続けて、座長の先生が質疑討論のための3分間を設けますので、座長とご協力いただき有意義な討論時間となるようお願いいたします。
- 5) ご講演が11分を越えた場合には、質疑討論時間から講演時間超過分を振り替えるよう座長に運営をお願いしておりますので、お含み下さい。
- 6) ご講演時間と質疑討論時間の合計時間が14分に達した時点で2回目の振鈴がなりますので、その演題のご講演を終了とさせていただきますので、お忘れ物(時計、ご発表原稿など)なきようご降壇願います。

##### (2) 座長の先生方へ

- 1) 一般演題による一般講演は14日(土)9:30~12:10(一般講演A・B・C)と、15日(日)9:00~12:00(一般講演D・E・F)の2区分に分かれております。学会ホームページに掲載されている各先生のご担当演題の日時をご確認願います。
- 2) 当日はご担当演題のできれば2演題前(30分前)に次座長席にて待機願います。やむを得ない場合(ご自身のご講演がある場合など)は、1演題前にはご着席いただきますようお願い申し上げます。
- 3) ご担当の演題セッションになりましたら座長席にご登壇いただき、自己紹介の後にご担当演題の運営をお願いいたします。
- 4) 1演題の発表時間は口頭発表11分・質疑討論3分です。発表開始後10分で1度目の振鈴がなりますので、ご講演の終了につきご配慮いただきますが、発表が11分を超える場合には、質疑討論時間から発表時間の超過分を振り替えて運営願います。
- 5) 質疑討論にあたっては、まず質疑を聴衆に確認し、特に出なければ、座長から1点、2点の質疑をしていただくと幸いです。
- 6) 発表時間と質疑討論時間の合計時間が14分に達した時点で2回目の振鈴がなりますので、その演題の発表を終了させ、次の演題に移行願います。
- 7) ご担当の演題がすべて終了いたしましたら、ご自身の担当が終了したことを宣してご降壇願います。
- 8) ご担当の演題において演者が欠席した場合でも、講演時間の繰り上げは行わず、当該会場の休憩時間として下さい。
- 9) 14日(土)、15日(日)とも、各会場最終の座長の先生には、事務局からの連絡事項等を伝達いただくことがございますが、その際にはご協力をお願い申し上げます。

以上

(表紙写真：弘道館正門)



